

教科〔音楽〕種目〔一般〕

令和 3 年度から使用する中学校用教科用図書 の 調査 ・ 研究 報告 書

1 教 科 [ 音 楽 ] 種 目 [ 一 般 ]

2 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、市内中心部に大ホールを併設した文化施設を有するとともに、各区に区民文化センターを設置しており、広島交響楽団による西洋音楽をはじめとし、能や民謡等様々なジャンルの音楽に触れる機会に恵まれた地域である。
- 本市の生徒は、ネット環境、情報機器の充実により、音楽に関する情報を得やすく、日常生活で音楽に親しんでいる生徒が多いが、興味を示す音楽に偏りがあり、様々な音楽について、よさを感じ取りたり、理解したりすることに課題がある。また、文化祭等において表現活動の学習成果を発表する機会があり、協働して表現活動に取り組むことができているが、生徒一人一人が音楽を知覚したことで関連付けた、適切な言葉で表現することに課題が見られる。

3 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜基礎・基本の定着＞	① 表現の基礎・基本の定着を図るための工夫 ② 鑑賞の基礎・基本の定着を図るための工夫 ③ 共通事項との関連を図るための工夫
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	④ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫 ⑤ 生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と関わるための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	⑥ 題材や資料等の配列・分量 ⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況
＜内容の表現・表記＞	⑧ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方
＜言語活動の充実＞	⑨ 表現・鑑賞領域における言語活動につなげる工夫

令和3年度から使用する中学校用教科用図書調査・研究報告書

1 教科〔音楽〕種目〔一般〕  
2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観点	視点	発行者
観点1 基礎・基本の定着	<p>① 表現の基礎・基本の定着を図るための工夫</p> <p>② 鑑賞の基礎・基本の定着を図るための工夫</p>	<p>教育芸術社</p> <p>○ 各学年の「My voice」というコーナーで、歌唱に関わる基礎的な事項を示している。</p> <p>○ 各学年の「指揮をしてみよう」のコーナーで、指揮をする際の基本的なポイントを文と図で示すとともに、指揮者からのメッセージを掲載している。</p> <p>○ 創作活動において、「My Melody」[Let's Create]で、活動の進め方を①、②、③・・・と順に示し、文章で説明している。</p>
	<p>○ 鑑賞の教材ごとに、聴くポイントを簡潔に示すとともに、音楽の背景や楽曲・作曲者について解説している。</p> <p>○ 第2・3学年下の音楽史年表「日本と西洋の音楽の歩み」では、日本や西洋の歴史と音楽文化、作曲家との関連を示し、その時代に関連する音楽を鑑賞するように促している。</p>	<p>○ 鑑賞の教材ごとに、聴くポイントを簡潔に示すとともに、音楽の背景や楽曲・作曲者について解説している。</p> <p>○ 第2・3学年下の音楽史年表「耳でたどる音楽史」では、日本や西洋の歴史と音楽文化、作曲家との関連を示し、その時代に関連する音楽を鑑賞するように促している。</p>
③ 共通事項との関連を図るための工夫	<p>○ 巻頭の学習内容を示した「学びのコミュニティ」で、教材ごとの「学びの手掛かりとなるヒント」として音楽を形づくっている要素を示している。</p> <p>○ 巻末の「楽典」に、用語や記号などを示している。</p> <p>○ 音楽を形づくっている要素について、巻末の「どんな特徴があるかな？」のページを設け、音楽を形づくっている要素と感じ取ったことを関連付ける活動を例示している。</p>	<p>○ 巻頭の学習内容を示した「学習内容」で、教材ごとに関連する音楽を形づくっている要素を示している。</p> <p>○ 教材ごとに、関連する音楽を形づくっている要素を見開きページの左側に注に、アイコンで示している。また、学習したことをもとに考える際の参考として、「注目するポイント」を示している。</p> <p>○ 巻末の「音楽の約束」で、用語や記号などを示している。</p> <p>○ 音楽を形づくっている要素について、巻末に「音楽を形づくっている要素」のページを設け、1年間で学習した音楽を形づくっている要素を関連教材のページを付して、振り返りよう示している。</p> <p>○ 第1学年、第2・3学年上で、「リズムゲーム」、「リズムアンサンブル」、「リズムチャレンジ」のページを設け、ゲーム感覚で、簡単なリズムの読み書きを定着させたり、リズム感覚を身に付けさせたりできる場を設定している。</p>

観点	視点	発行者	教育芸術社
観点2 具体的に学習に取り組む工夫	④ 興味・関心をもたせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次に繋げたりするための工夫	<p>教育出版</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 巻頭で3ページにわたり、「A Message for You」(共通教材)、「作者の思いにふれる」で作曲者や作詞者の言葉を紹介している。</li> <li>○ 「目次」では、領域を色分けして示すとともに、創作、鑑賞教材にはアイコンを付している。また、「比べよう」、「深めよう」等の活動に関するアイコンを示している。</li> <li>○ 「学びのユニット」で学びのねらい、学習する曲や活動、学習を生かして比べる曲、学びの手掛かりとなるヒント、学びを深めるための曲や活動を示している。</li> <li>○ 教材ごとに学びのポイントを示し、ページ数を付した「比べてみよう」、「深めてみよう」のアイコンが付されている。</li> <li>○ 各学年、活動の手順や課題を示した部分に、考えを深められるよう、大人や子どものイラストとともに、セリブを掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 巻頭で4ページにわたり、現代の音楽に関わる人物を紹介し、「音楽って何だろう？」で演奏者・作詞者の言葉を紹介している。</li> <li>○ 歌唱教材に、作者からの言葉、鑑賞教材に演奏者からの言葉を掲載している。</li> <li>○ 「目次」では、領域を色分けして示すとともに、創作、鑑賞教材には、アイコンを付している。</li> <li>○ 「学習内容」で、三つの資質・能力とそれに対応する学習内容や教材を図示し、学習内容と各教材の関連の大小を色の濃さで示している。</li> <li>○ 教材ごとに学習目標と音楽を形づくっている要素を示すとともに、学習のポイントが示されている。学習目標は、教材同士を関連付けて捉えることができる目標となっている。</li> <li>○ 各学年、活動の手順や課題を示した部分に、考えを深められるよう、大人や子どものイラストとともに、セリブを掲載している。</li> </ul>
⑤ 生活や社会の中の音や音楽、音楽文化に関わるための工夫		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 我が国や郷土の伝統音楽を鑑賞する教材の後に、関連する楽器や歌唱方法を体験する教材を配置している。</li> <li>○ 我が国や郷土の伝統音楽については、総譜や文化譜、唱歌について掲載し、唱歌を歌う場面を設定している。</li> </ul> <p>【発問の具体例】</p> <p>第2・3学年上「唱歌(しょうが)を用いて『越天楽』を体験しよう」では、打ちものや華築(ひちりき)の唱歌の総譜を掲載し、「音源の演奏を聴きながら唱歌で合わせてみよう」、「拍やリズム、華築の旋律の特徴を感じ取ろう」、「打ちもの(打楽器)や華築は、どのようにすると合うかな」と示し、「膝の打ち方」を付し、歌う活動を促している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第1学年「郷土のさまざまな民謡」、「日本とアジアの声によるさまざまな表現」、「日本とアジアをつなぐ音」、第2・3学年上「郷土の音楽や芸能」、「各地のさまざまな音楽・芸能」の中で、人々のくらしと音楽の結びつきについて紹介している。</li> <li>○ 創作活動で、日本語のリズムや抑揚、擬音語、日本の音階を題材としたり、CMソングをつくる活動を設定したりするなど、我が国の音楽、生活や社会の中の音楽と関連付ける教材を設定している。</li> <li>○ 第2・3学年上「私たちのくらしと音楽」では、音楽著作権について例を示したり、QA式で場面を設定したりしている。第2・3学年下「私たちのくらしと音楽」でアウトリーチ・教育活動・音楽療法について掲載している。また、第2・3学年下「コンピュータと音楽」では、コンピュータと音楽の関わりについて、紹介している。</li> <li>○ 第2・3学年上「ポピュラー音楽図鑑」で、4ページにわたり、ポピュラー音楽の起源や種類について、それぞれの音楽の違いや代表的な演奏家や作曲家について、イラストを付して紹介している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 我が国や郷土の伝統音楽を鑑賞する教材の後に、関連する楽器や歌唱方法を体験する教材を配置している。</li> <li>○ 我が国や郷土の伝統音楽については、総譜や文化譜、唱歌について掲載し、唱歌を歌う場面を設定している。</li> </ul> <p>【発問の具体例】</p> <p>第1学年「越天楽」の唱歌(しょうが)を歌おう)では、五線譜と華築の総譜(一部)を掲載し、「華築(ひちりき)の唱歌を歌って、旋律の特徴を感じ取りましょう」とし、「歌う時のポイント」を「華築の演奏を聴いて、楽器の音色や旋律の特徴を感じ取りましょう」、「唱歌の模範演奏をまねて、拍子を取りながら大きな声で歌いましょう」とし、「歌う時の姿勢」、「拍子の取り方」を付し、歌う活動を促している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第1学年「日本の民謡」、「郷土に伝わる民謡を調べよう」、「アジアの諸民族の音楽」、第2・3学年上「受け継ごう！郷土の祭りや芸能」、「世界の諸民族の音楽」、第2・3学年下「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能」、「世界の諸民族の音楽」の中で、人々のくらしと音楽の結びつきについて紹介している。また、各学年、裏表紙「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能」で、中学生が伝統芸能に関わっている写真を掲載している。</li> <li>○ 創作活動で、俳句や身近な素材、鑑賞教材のモチーフを素材とするなど、我が国の音楽、生活や社会の中の音楽と関連付ける教材を設定している。</li> <li>○ 第2・3学年下「ルールを守って音楽を楽しもう！」では、著作権の「音楽を利用するときに気を付けること」、「音楽が生み出される仕組み」についてイラストの会話で表現している。また、各学年の「生活や社会の中の音楽」で音や音楽の果たす役割や、音楽体験を拓くアウトリーチや、仕事と音楽について掲載している。また、第2・3学年下「社会を映し出す音楽」の中で地域・環境・時代と音楽との関わりについて紹介している。</li> <li>○ 第2・3学年下「ポピュラー音楽」で、ポピュラー音楽の様々なジャンルについて2ページにわたり鑑賞活動を設定し、「ポピュラー音楽のジャンル」で、海外編と日本編に分けて、更に4ページにわたり、様々なジャンルの相関関係を示したり、写真を掲載し、解説したりしている。</li> </ul>



発行者

教育出版

教育芸術社

<p>観点</p>	<p>⑤ 表現・鑑賞領域における 言語活動につなげる工夫</p>	<p>○ 各学年で設けている「進んで学び合おう ACTIVE！」において、歌唱教材では、聴き取ったことや感じ取ったこと、曲のよさや面白さについて、生徒が直接書き入れる部分を設けたり、友達と話し合う活動を促したりしている。</p> <p>○ 第2・3学年上、第2・3学年下の創作教材で、つくった作品をもとに、友達と交流する活動を設定している。</p> <p>○ 各学年の創作教材で、生徒が直接書き入れて創作活動を行うよう促している。</p> <p>○ 各学年の「何が同じで、何が違う？」では、様々な音楽について共通性や固有性を考え、特徴を理解することができるよう、表に整理し、話し合う活動を設定している。</p>
		<p>○ 各学年で設けている「深めよう！音楽」において、歌唱教材では、聴き取ったことや感じ取ったこと、表現の工夫について、鑑賞教材では、聴き取ったことや感じ取ったこと、曲のよさや面白さについて、生徒が直接書き入れる部分を設けたり、友達と話し合う活動を促したりしている。生徒が直接書き入れる部分は、表の形式になっている。</p> <p>○ 各学年の創作教材で、つくった作品について友達と意見交流する活動を設定している。また、創作の過程で、中間発表を設定し、話し合いを促している。</p> <p>○ 各学年の創作教材で、生徒が直接書き入れる部分を「ワークシート」とし、創作活動と工夫したことをまとめるよう促している。</p> <p>○ 第2・3学年下の巻末で、「曲のよさをプレゼンしよう」のコーナーを設け、自分で選んだ曲について、その曲の音楽的な特徴や感じ取ったことをもとに、曲のよさや聴きどころを伝え合う活動を設定している。また、プレゼンする曲について、直接書き込む部分を設けている。</p>

教科〔音楽〕種目〔器楽合奏〕

令和3年度から使用する中学校用教科用図書調査・研究報告書

1 教科 [ 音楽 ] 種 目 [ 器楽合奏 ]

2 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、市内中心部に大ホールを併設した文化施設を有するとともに、各区に区民文化センターを設置しており、広島交響楽団による西洋音楽をはじめとし、能や民謡等様々なジャンルの音楽に触れる機会に恵まれた地域である。
- 本市の生徒は、ネット環境、情報機器の充実により、音楽に関する情報を得やすく、日常生活で音楽に親しんでいる生徒が多いが、興味を示す音楽に偏りがあり、様々な音楽について、よさを感じ取り、理解したりすることに課題がある。また、文化祭等において表現活動の学習成果を発表する機会があり、協働して表現活動に取り組むことができているが、生徒一人一人が音楽を知覚したことで関連付け、適切な言葉で表現することに課題が見られる。

3 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜基礎・基本の定着＞	① 器楽の基礎・基本の定着を図るための工夫 ② 共通事項との関連を図るための工夫
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	③ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫 ④ 生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と関わるための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	⑤ 題材や資料等の配列・分量 ⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況
＜内容の表現・表記＞	⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方
＜言語活動の充実＞	⑧ 器楽領域における言語活動につなげる工夫



令和3年度から使用する中学校用教科用図書の特徴・研究報告書

1 教科 [音楽] 種目 [器楽合奏]

2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観点	視点	発行者
観点1	① 器楽の基礎・基本を図るための工夫 ② 共通事項を図るための工夫	教育芸術社
観点2	主体的に学習に取り組む工夫	教育芸術社

  

観点1	基礎・基本の定着	教育芸術社
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 楽器(リコーダー・ギター・箏・三味線・太鼓・篠笛・尺八)の各部の名称、姿勢と構造的な楽法を、写真やイラストを用いて解説している。</li> <li>○ リコーダーの基礎的な楽法を身に付けるためのポイントを文で示している。</li> <li>○ ギターの楽法として、アポヤンド奏法、アル アイレ奏法を掲載している。</li> <li>○ ギターのタブ譜について、タブ譜を付した楽譜を掲載し、説明している。</li> <li>○ 創作活動として、お囃子を題材とした活動を設定している。</li> <li>○ 巻末に、「リコーダー運指表」と「ギター&amp;キーボードコード表」を掲載している。</li> <li>○ 音楽を形づくっている要素について、「Let's Play!」や「Let's Try!」のページで、関連する学習のポイントを文章で示している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 楽器(リコーダー・ギター・箏・三味線・太鼓・篠笛・尺八・打楽器)の各部の名称、姿勢と構造的な楽法を、写真やイラストを用いて解説している。</li> <li>○ リコーダーの基礎的な楽法を身に付けるためのポイントを文やQ&amp;A方式で示している。</li> <li>○ ギターの楽法として、ストローク奏法、アポヤンド奏法、アル アイレ奏法を掲載している。</li> <li>○ ギターのタブ譜について、「バンドのスコア(楽譜)を見てみよう!」で、タブ譜を付した楽譜を掲載し、説明している。</li> <li>○ 創作活動として、箏を用いた活動を設定している。</li> <li>○ 巻末に、「リコーダーの運指表」と「ギター&amp;キーボードコード表」を掲載している。</li> <li>○ 音楽を形づくっている要素について、「アンサンブル」のページで、関連する学習のポイントを文章で示し、「アンサンブルセミナー」のページで左側に注にアイコンで示している。</li> </ul>
②	共通事項	
③	興味関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 巻頭の「さまざまな音色や響きと奏法」で、様々な楽器の演奏時の写真を掲載している。</li> <li>○ 著名な演奏者の言葉を、巻頭の「With My Heart」、各楽器のページで掲載している。</li> <li>○ 「目次」で、各楽器を色分けして示し、構成を「演奏の仕方を身に付けよう」、「合わせて演奏しよう」に分けて示している。</li> <li>○ 各楽器のページでは、見開きごとに目標を示し、教材ごとに学習のポイントを示している。</li> <li>○ 巻末の「Let's Play!」、「Let's Try!」で練習曲や合奏曲を掲載し、「名曲旋律集」では、表現・鑑賞領域で扱う楽曲の旋律を掲載している。</li> <li>○ 創作活動「音のスケッチ」で、活動①、②、③の順で一連の学習過程を示している。</li> <li>○ 各楽器の種類や特徴について写真や言葉で示している。</li> </ul>
④	生活や社会の中の音や音楽、音楽文化に関わるための工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各楽器の始めのページで、楽器の起源や発展について紹介している。</li> <li>○ 和楽器の学習において、箏、三味線、太鼓のページで、総譜や文化譜、唱歌について掲載し、日本の音楽文化について紹介しているとともに、唱歌を唱え、楽器を演奏するように促している。</li> <li>○ 巻末の「楽しもう!和楽器の音楽」で、部活動を通して和楽器の合奏に取り組んでいる中学生を紹介するとともに、裏表紙「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能」で、中学生が伝統芸能に関わっている写真を掲載している。</li> </ul>

教育出版

教育芸術社

○ 各学年の教材については、次のとおりである。

リコーダー 曲	ギター曲	箏曲	三味線 曲	太鼓曲	篠笛曲	尺八曲	アンサンブル・ 合奏曲
29曲	5曲	6曲	2曲	※	5曲	1曲	23曲

- ※ 太鼓の教材は「アンサンブル」に1曲有り
- リコーダー、箏、三味線のページで、「聴いてみよう」のコーナーを設け、鑑賞教材を4曲示している。
- アンサンブル、篠笛、尺八、ギター、箏、三味線、太鼓、アンサンブル・合奏、名曲旋律集、資料で構成している。
- 器楽を用いた創作活動「音のスケッチ」を4教材設定している。
- 分量 約220g、99ページ サイズ A4変型判
- 「発展」のコーナーを設け、世界の諸民族の楽器について調べる活動を促している。

○ 各学年の教材については、次のとおりである。

リコーダー 曲	ギター曲	箏曲	三味線 曲	太鼓曲	篠笛曲	尺八曲	アンサンブル・ 合奏曲
20曲	2曲	6曲	2曲	1曲	4曲	1曲	18曲

- リコーダー、ギター、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八について、「〇〇の演奏を聴こう」のコーナーを設け、それぞれの楽器ごとに鑑賞曲を2～3曲示している。
- アンサンブルセミナー、リコーダー、ギター、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八、打楽器、アンサンブル・合奏、器楽でMelody、資料で構成している。
- 器楽を用いた創作活動「My Melody」を1教材設定している。
- 分量 約230g、106ページ サイズ A4変型判
- 「Challenge!!」のコーナーを設け、演奏の仕方について、例を示し工夫を促している。

⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方

⑧ 器楽領域における言語活動につなげる工夫

観点3 内容の構成・配列・分量

観点4 内容の表現・表記

観点5 言語活動の充実

- リコーダー、篠笛、尺八、ギター、箏、三味線、太鼓それぞれのページで、演奏している写真と構え方や奏法の写真を掲載している。
- 本文中に、キャラクターを登場させ、セリフとして、解説を補ったり、活動を促したりしている。
- 学習に関連する音源や映像などの資料を掲載したウェブコンテンツを利用できる教材には、「まなびリンク」のアイコンを付している。巻頭のQRコードまたはサイトのアドレスから、ウェブコンテンツが一覧となったページを利用できるようになっている。

- リコーダー、ギター、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八、打楽器、それぞれのページで、演奏している写真と構え方や奏法の写真を掲載している。
- 本文中に、キャラクターを登場させ、セリフとして、考えるポイントや工夫したい点等を示したり、活動を促したりしている。
- 学習に関連する音源や映像などの資料を掲載したウェブコンテンツを利用できる教材には、QRコードを付している。各教材のQRコードから、教材ごとに関連するウェブコンテンツを利用できるようにになっている。

- 「何が同じで何が違う？」で、楽器の共通点・相違点について表にまとめ、交流し友達に紹介する活動を促している。また、発展として楽器の背景となる文化や伝説を調べ、記入する欄を設けている。

- 「アンサンブルセミナー」に掲載された教材全てに「深めよう！音楽」を設定し、示された譜例や吹き出しを活用しながら友達と交流し、グループで表現を工夫したり、パートの役割を話し合ったりする活動を促している。

教科〔美術〕種目〔美術〕

令和 3 年度から使用する中学校用教科用図書 の 調査 ・ 研究 報告 書

1 教 科 [ 美術 ] 種 目 [ 美術 ]

2 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、美術作品等に直接触れることができる文化的施設の多い市街地を持つ地域である。また、山林を主体とした自然豊かな地域や、瀬戸内海に面した風光明媚な沿岸部など、変化に富んだ様々な環境が見られる地域もある。
- 生徒は、美術への関心・意欲が比較的高く、学習に意欲的に取り組む生徒が多い。一方で、主題に対して豊かに発想し構想を練る力や、表現において意見を述べ合ったり、鑑賞において自分の価値意識をもって批評し合ったりする力に課題がある。

3 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜基礎・基本の定着＞	① 造形的な視点を豊かにするために必要な知識 ② 日本の伝統や文化に関する内容
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	③ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫 ④ 生活や社会の中の美術や美術文化との関わりを考えさせるための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑥ 発想し構想することに関する内容
＜内容の表現・表記＞	⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方
＜言語活動の充実＞	⑧ 意見を述べ合ったり、批評し合ったりするなどの学習活動の示し方と具体例

令和3年度から使用する中学校教科用図書調査・研究報告書

1 教科 [美術] 種目 [美術]  
2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観点	開隆堂出版	光風堂出版	日本教出版
① 造形的な視点から、必要知識を豊かにする	<p>○ 巻末に「学びの資料」として、第1学年では16ページ、第2・3学年では17ページで、美術に関する基礎的な技法や、材料・用具の特徴や使い方、題材で活用できる知識などについて特集し、掲載している。</p> <p>○ 題材ごとに「目標」が示されており、「知識や技能に関する目標」をマークとともに示している。</p> <p>○ 題材に応じて、下部に矢印を付け、関連する技法や表現方法等の参照先を示している。</p> <p>○ 第1学年で「伊藤若冲の世界」、「祭りの造形」、「金の表現、墨の表現」、「浮世絵、庶民の楽しみ」、「水墨画の世界」、「物語を伝える絵巻物の世界」、「祈りの造形、仏像の美」、「生活に生きたる伝統工芸」、「伝統と創造」、「日本の伝統色と配色文化」の題材や、特集で日本の伝統や文化について取り上げている。</p> <p>○ 第2・3学年では、見開き5ページにわたり、「美術の歴史と交流」の年表を設け日本の美術作品を掲載している。</p>	<p>○ 巻末に「学習を支えるための資料」として、第1学年では24ページ、第2・3学年では28ページで、美術に関する基礎的な技法や、材料・用具の特徴や使い方、題材で活用できる知識などについて特集し、掲載している。それぞれの内容を詳しく扱ったり、材料の中でも身近な紙について取り上げたりすることで、内容が充実している。</p> <p>○ 題材ごとに「目標」が示されており、知識や技能に関する内容を含んだ「表現」と「鑑賞」の2つに分けて示している。</p> <p>○ 題材に応じて、下部に矢印を付け、関連する技法や表現方法等の参照先を示している。</p> <p>○ 第1学年で「風神雷神-受け継がれる日本の美」、第2・3学年で「うつくしい!」、「北斎からゴッホへ」、「絵巻物と漫画の表現」、「季節感のある暮らしを楽しむ」、「日本の伝統色」、「海外を越えた文化交流（仏像）」、「北と南の民族衣装」、「日本の伝統工芸」、「日本の世界文化遺産」の題材や、特集で日本の伝統や文化について取り上げている。</p> <p>○ 第2・3学年では、見開き3ページにわたり、「美術史年表」を設け日本の美術作品を掲載している。</p>	<p>○ 巻末に「学びをささげる資料」として、第1学年では18ページ、第2・3学年では16ページ、第2・3学年下では10ページで、美術に関する基礎的な技法や、材料・用具の特徴や使い方、題材で活用できる知識などについて特集し、掲載している。</p> <p>○ 題材ごとに「目標」が示されており、「知識や技能に関する目標」を「造形的な見方を豊かにする視点や、技能に関する目標」としてマークとともに示している。</p> <p>○ 掲載している資料に応じて、関連する技法や表現方法等の参照先を示している。</p> <p>○ 第1学年で「屏風、美のしかけ」、「美のタイムトラベル」、「祭りを彩る造形」、第2・3学年で「浮世絵はすごい」、「手から手へ受け継ぐ」、「季節を楽しむ心」、「絵巻物の世界」、「北斎の六波」、第2・3学年下で「仏像宿る心」、「火焔型土器」、「日本の世界文化遺産」、「受け継ぐ伝統と文化」、「仏像の種類」、「美術文化の継承」の題材や、特集で日本の伝統や文化について取り上げている。</p> <p>○ 第2・3学年では、4ページにわたり、「日本美術と世界の美術のあゆみ」の年表を設け日本の美術作品を掲載している。</p> <p>○ 第1学年「中学校美術の世界へようこそ」の特集で、図画工作科との接続や、中学校の美術の学びについて、2ページにわたって示している。</p> <p>○ 各題材では、目標を「知識・技能等」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱で示している。</p> <p>○ 4ページにわたって、美術作品を大きく掲載している。 第1学年 : 「風神雷神図屏風」、「燕子花図」 第2・3学年上 : 「三世大谷鬼次の奴江戸兵衛」、「当時三美人」、「富嶽三十六景神奈川沖浪裏」 第2・3学年下 : 「サングラダ・ファミリア聖堂」、「ゲルニカ」 ○ 作品の一部を原寸大で掲載している。 第1学年 : 「遮光器土偶」 第2・3学年上 : 「星月夜」、「印象-日の出」、「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」 第2・3学年下 : 「誕生」、「火焔型土器」 ○ 第2・3学年上の「その一枚が人を動かす」において、「ヒロシマ・アビールズ1983、1984、2015」の3作品を掲載している。</p>
② 日本の伝統や文化に関する内容	<p>○ 各題材では、鑑賞→表現→鑑賞の流れで、表現と鑑賞を相互に関連付けて学習を進めるように構成しており、マークで示している。</p> <p>○ 4ページにわたって、美術作品を大きく掲載している。 第1学年 : 「風神・雷神像」、「風神雷神図屏風」 第2・3学年 : 「『ゲルニカ』を見る少年」、「ゲルニカ」</p> <p>○ 作品の一部を原寸大で掲載している。 第2・3学年 : 「阿修羅像」、「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」、「鳥獣人物戯画 甲巻」</p> <p>○ 第2・3学年の「メッセージを伝える」において、「ヒロシマ・アビールズ1983、1984、2015」の3作品を掲載している。</p>	<p>○ 各題材では、表現と鑑賞の2つの内容に分けて学習目標を示している。</p> <p>○ 各題材では、鑑賞→表現→鑑賞の流れで、表現と鑑賞を相互に関連付けて学習を進めるように構成しており、マークで示している。</p> <p>○ 4ページにわたって、美術作品を大きく掲載している。 第1学年 : 「風神・雷神像」、「風神雷神図屏風」 第2・3学年 : 「『ゲルニカ』を見る少年」、「ゲルニカ」</p> <p>○ 作品の一部を原寸大で掲載している。 第2・3学年 : 「阿修羅像」、「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」、「鳥獣人物戯画 甲巻」</p>	<p>○ 各題材では、目標を「知識・技能等」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱で示している。</p> <p>○ 4ページにわたって、美術作品を大きく掲載している。 第1学年 : 「梅花鳥獣図屏風」 第2・3学年 : 「紅梅図巻」、「誕生」、「ボウルを持つデーモン」</p> <p>○ 作品の一部を原寸大で掲載している。 第1学年 : 「梅花鳥獣図屏風」 第2・3学年 : 「自画像（ゴッホ）」、「記憶の国執」</p> <p>○ 第2・3学年の「ボスターで伝える」において、「ヒロシマ・アビールズ2019」を掲載している。</p>
③ 興味・関心を持たせ、最通しを立てたり、学習を振り返って次に活かすための工夫	<p>○ 第2・3学年の「ボスターで伝える」において、「ヒロシマ・アビールズ2019」を掲載している。</p>	<p>○ 第1学年「美術って何だろう?」の特集で、図画工作科との接続や、中学校の美術の学びについて、4ページにわたって示している。</p>	<p>○ 第1学年「中学校美術の世界へようこそ」の特集で、図画工作科との接続や、中学校の美術の学びについて、2ページにわたって示している。</p>
観点1 主体的に学習に取り組む工夫			

観点	開隆堂出版	発行所 光村図書出版	日本文教出版	
観点 3 内容の構成・配列・分量	<p>④ 生活や社会の中の美術や美術文化との関わりを考えさせるための工夫</p>	<p>○ 鑑賞の版面や絵巻物・漫画の題材では、それぞれ2作品について和紙の風合いをもつ紙を使用して掲載している。 第1学年 : 「星空をべガサスと牛が飛んでいく」(生徒作品)、 「瀬戸内海集 帆船(朝)」 第2・3学年 : 「鳥獣人物戯画」、「火の鳥」 ○ 第2・3学年、鑑賞の「最後の晚餐」では、トレーシングペーパーを折り、かき込みができるようになっている。</p> <p>○ 第1学年、第2・3学年の「デザインや工芸など」の各題材では、身近な物の写真等を活用し、生活や社会と美術との関わりを考えながら学習するようにしている。 ○ 第1学年巻末に、「美術館を楽しむ」、「美術鑑賞を楽しむ手がある」を3ページで掲載し、社会の中の美術文化との関わりを示している。 ○ 第2・3学年「暮らしに生きる美術」、「婦と形の響き合い」、「リノベーション、使い続ける工夫」、「私たちの社会と美術」の特集や題材では、社会の中の美術文化との関わりを示している。 ○ ページ下に「道徳」、「教科名」、「特別活動」として、道徳科や他教科との関連を示している。(第1学年:30箇所、第2・3学年:77箇所)</p> <p>○ 全2冊で、第1学年、第2・3学年としている。</p> <p>○ 第1学年が全67ページ、第2・3学年が全123ページである。</p> <p>○ 題材等を「発見と創造・探求と継承」、「絵や彫刻など」、「デザインや工芸など」、「学びの資料」の順に掲載している。ページ左上のインデックスで、分野と活動を示している。 ○ 1つの題材を2～4ページで掲載している。 ○ 各学年の題材の数は、以下の通りである。 第1学年 : 絵や彫刻など 6題材 デザインや工芸など 6題材 鑑賞 5題材 第2・3学年 : 絵や彫刻など 9題材 デザインや工芸など 12題材 鑑賞 18題材</p>	<p>○ 鑑賞の版面や絵巻物・漫画の題材では、それぞれ2作品について和紙の風合いをもつ紙を使用して掲載している。 第1学年 : 「星空をべガサスと牛が飛んでいく」(生徒作品)、 「瀬戸内海集 帆船(朝)」 第2・3学年 : 「鳥獣人物戯画」、「火の鳥」 ○ 第2・3学年、鑑賞の「最後の晚餐」では、トレーシングペーパーを折り、かき込みができるようになっている。</p> <p>○ 第1学年、第2・3学年の「デザインや工芸など」の各題材では、身近な物の写真等を活用し、生活や社会と美術との関わりを考えながら学習するようにしている。 ○ 第1学年巻末に、「美術館を楽しむ」、「美術鑑賞を楽しむ手がある」を3ページで掲載し、社会の中の美術文化との関わりを示している。 ○ 第2・3学年「暮らしに生きる美術」、「婦と形の響き合い」、「リノベーション、使い続ける工夫」、「私たちの社会と美術」の特集や題材では、社会の中の美術文化との関わりを示している。 ○ ページ下に「道徳科」とのつながりとして、道徳科との関連を示している。(第1学年:7箇所、第2・3学年:15箇所) また、他教科と関連する内容を、コーナーを設けて示している。 ○ 第1学年の巻頭に、「うつくしい!」として、全国の中学生が撮影した「うつくしい!」と感じた瞬間や風景などの身の回りの写真を掲載し、生活と美術のつながりを示している。</p> <p>○ 全2冊で、第1学年、第2・3学年としている。</p> <p>○ 第1学年が全81ページ、第2・3学年が全105ページである。</p> <p>○ 題材等を「はじめに」、「絵や彫刻など」、「デザインや工芸など」、「学習を支える資料」の順に掲載している。ページ左上のインデックスで、分野と活動を示している。 ○ 1つの題材を2～7ページで掲載している。 ○ 各学年の題材の数は、以下の通りである。 第1学年 : 絵や彫刻など 6題材 デザインや工芸など 6題材 鑑賞 5題材 第2・3学年 : 絵や彫刻など 10題材 デザインや工芸など 6題材 鑑賞 6題材</p>	<p>○ 第1学年、第2・3学年上、下の「デザインや工芸など」の各題材では、身近な物の写真等を活用し、生活や社会と美術との関わりを考えながら学習するようにしている。 ○ 第1学年巻末に、「美術館へ行こう」を2ページで掲載し、社会の中の美術文化との関わりを示している。 ○ 第2・3学年下「さまざまなアートに触れよう」、「日本の世界文化遺産」、「社会に生きる美術の力」の特集では、社会の中の美術文化との関わりを示している。 ○ ページ下に、道徳科との関連を示している。(第1学年:7箇所、第2・3学年上:9箇所、第2・3学年下:9箇所) ○ 第2・3学年上の「あなたの美を見つけよう」では、全国の中学生が撮影した「私の見つけた美」を掲載し、生活と美術のつながりを示している。</p> <p>○ 全3冊で、第1学年、第2・3学年上、第2・3学年下としている。</p> <p>○ 第1学年が全75ページ、第2・3学年上が全65ページ、第2・3学年下が全61ページである。</p> <p>○ 題材等を「オリエンテーション」、「絵や彫刻など」、「デザインや工芸など」、「学びを支える資料」の順に掲載している。ページ左上のインデックスで、分野と活動を示している。 ○ 1つの題材を2～6ページで掲載している。 ○ 各学年の題材の数は、以下の通りである。 第1学年 : 絵や彫刻など 7題材 デザインや工芸など 7題材 鑑賞 5題材 第2・3学年上 : 絵や彫刻など 6題材 デザインや工芸など 6題材 鑑賞 5題材 第2・3学年下 : 絵や彫刻など 6題材 デザインや工芸など 6題材 鑑賞 5題材</p>

観点	発行者		
	開隆堂出版	光村図書出版	
観点	<p>○ 第1学年の鑑賞題材は、「絵や彫刻など」、「デザインや工芸など」の表現領域の題材と共に掲載されている。第2・3学年の鑑賞題材は、18題材中10題材が「鑑賞で学ぶこと」として、表現領域から独立しており、4教材が巻末に「まとめ」として掲載されている。</p> <p>○ 第1学年 サイズ A4ワイド判 重さ 約266g 第2・3学年 サイズ A4ワイド判 重さ 約462g</p>	<p>○ 各学年の鑑賞題材は、「絵や彫刻など」、「デザインや工芸など」の表現領域の題材と共に掲載されている。</p> <p>○ 第1学年 サイズ A4ワイド判 重さ 約312g 第2・3学年 サイズ A4判 重さ 約390g</p>	<p>日本教出版</p> <p>○ 各学年の鑑賞題材は、「絵や彫刻など」、「デザインや工芸など」の表現領域の題材と共に掲載されている。</p> <p>○ 第1学年 サイズ A4ワイド判 重さ 約338g 第2・3学年上 サイズ A4ワイド判 重さ 約294g 第2・3学年下 サイズ A4ワイド判 重さ 約274g</p>
⑥ 発想し構想することに関する内容	<p>○ 発想や構想の方法などを示すコーナーを設け、第1学年では4題材、第2・3学年では7題材で、発想や構想を助ける内容を掲載している。</p> <p>○ 生徒や作家の作品と共に「作者の言葉」を掲載している。作家の言葉は16題材で紹介されている。 (例) 第1学年 エドガー・ドガなど</p> <p>○ 生徒のアイデアスケッチやレポートが3題材で紹介されている。 (例) 第2・3学年 「ポスターで伝える『ゲリラ豪雨展』」など</p> <p>○ 第2・3学年では、思考ツール「マッピング」を紹介している。</p>	<p>○ 「みんなの工夫」というコーナーを設け、第1学年では4題材、第2・3学年では4題材で、中学生の制作や発想の癖を詳しく掲載している。また、各題材は、鑑賞→表現の流れで学習を進めることで、鑑賞したことを表現に生かすことができ、発想や構想を助ける構成になっている。</p> <p>○ 生徒や作家の作品と共に「作者の言葉」を掲載している。作家の言葉は5題材で紹介されている。 (例) 第1学年 須田悦弘など</p> <p>○ 生徒のアイデアスケッチやレポートが13題材で紹介されている。 (例) 第1学年 「印象に残るシンボルマーク『I'm fine!』」など</p> <p>○ 第2・3学年では、思考ツール「マッピング」、「9マスの図」、「ペン図」を紹介している。</p> <p>○ 第2・3学年では、発想や構想を助ける特集ページ「発想を広げる」を設けている。</p>	<p>○ 生徒や作家の作品と共に「作者の言葉」を掲載している。作家の言葉は10題材で紹介されている。 (例) 第2・3学年下 池田学など</p> <p>○ 生徒のアイデアスケッチやレポートが14題材で紹介されている。 (例) 第2・3学年下 「イメージを追い求めて『人生』」など</p> <p>○ 第1学年では、思考ツール「マッピング」を紹介している。</p> <p>○ 第1学年では、発想や構想を助ける特集ページ「発想・構想の手立て」を設けている。</p>
⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方	<p>○ 作家の作品の解説としては、作品名、素材、大きさ、制作年、所蔵先、作者名を掲載している。</p> <p>○ 生徒の作品の解説としては、作品名、素材、大きさ、作者の言葉を掲載している。</p> <p>○ ウェブコンテンツを利用できる題材には、QRコードを付している。QRコードから、教材ごとに関連するウェブコンテンツを利用できるようになっている。</p> <p>(第1学年23箇所、第2・3学年50箇所 計73箇所)</p>	<p>○ 作家の作品の解説としては、作品名、素材、大きさ、制作年、所蔵先、作者名を掲載している。</p> <p>○ 生徒の作品の解説としては、作品名、素材、大きさ、作者の言葉を掲載している。</p> <p>○ ウェブコンテンツを利用できる題材には、QRコードを付している。QRコードから、教材ごとに関連するウェブコンテンツを利用できるようになっている。</p> <p>(第1学年20箇所、第2・3学年25箇所 計45箇所)</p>	<p>○ 作家の作品の解説としては、作品名、素材、大きさ、制作年、所蔵先、作者名を掲載している。</p> <p>○ 生徒の作品の解説としては、作品名、素材、大きさ、作者の言葉を掲載している。</p> <p>○ ウェブコンテンツを利用できる題材には、QRコードを付している。QRコードから、ウェブコンテンツが一覧となったページを利用できるようになっている。</p> <p>(第1学年10箇所、第2・3学年上9箇所、第2・3学年下7箇所 計26箇所)</p>
観点4 内容の表現・表記			

発行者	
開隆堂出版	日本文教出版
視点	④意見を述べ合ったり、批評し合ったりするなどの学習活動の示し方と具体例
観点	観点5 言語活動の充実
開隆堂出版	光村図書出版
<p>○ 発想・構想の場面で意見を述べ合ったり、鑑賞の場面で自分の価値意識をもって批評し合ったりする学習活動を設定している。</p> <p>【発想・構想の場面】</p> <p>(例) 第1学年「形と色彩のメッセージ」など</p> <p>(例) 第2・3学年「ピクトグラムとサイン計画」など</p> <p>【鑑賞の場面】</p> <p>(例) 第1学年「機能と美しさの調和」など</p> <p>(例) 第2・3学年「美術で世界と向き合う」など</p> <p>○ 友達と意見交換しながら、作品を制作したり、話し合ったりする言語活動場面を、写真を付して示している。</p> <p>第1学年 7箇所</p> <p>第2・3学年 2箇所</p> <p>○ 生徒作品の観察レポート、商品企画書やアイデアスケッチ等、言語活動例を示している。</p> <p>第1学年 2箇所</p> <p>第2・3学年 3箇所</p>	<p>○ 発想・構想の場面で意見を述べ合ったり、鑑賞の場面で自分の価値意識をもって批評し合ったりする学習活動を設定している。</p> <p>【発想・構想の場面】</p> <p>(例) 第1学年「広がる模様の世界」など</p> <p>(例) 第2・3学年「魅力を伝えるパッケージ」など</p> <p>【鑑賞の場面】</p> <p>(例) 第1学年「自然の美しさから生まれた」など</p> <p>(例) 第2・3学年「あの目を忘れない」など</p> <p>○ 友達と意見交換しながら、作品を制作したり、話し合ったりする言語活動場面を、写真で示している。</p> <p>第1学年 7箇所</p> <p>第2・3学年上 4箇所</p> <p>第2・3学年下 11箇所</p> <p>○ 生徒作品の観察レポート、商品企画書やアイデアスケッチ等、言語活動例を示している。</p> <p>第1学年 5箇所</p> <p>第2・3学年上 3箇所</p> <p>第2・3学年下 4箇所</p>
<p>○ 発想・構想の場面で意見を述べ合ったり、鑑賞の場面で自分の価値意識をもって批評し合ったりする学習活動を設定している。</p> <p>【発想・構想の場面】</p> <p>(例) 第1学年「生活をいろどる文様」など</p> <p>(例) 第2・3学年「あれ? どうなっているの?」など</p> <p>【鑑賞の場面】</p> <p>(例) 第1学年「世界の仮面と出会う」など</p> <p>(例) 第2・3学年「ゲルニカ、明日への願い」など</p> <p>○ 友達と意見交換しながら、作品を制作したり、話し合ったりする言語活動場面を、写真を付して示している。</p> <p>第1学年 7箇所</p> <p>第2・3学年 6箇所</p> <p>○ 生徒作品の観察レポート、商品企画書やアイデアスケッチ等、言語活動例を示している。</p> <p>第1学年 6箇所</p> <p>第2・3学年 18箇所</p> <p>○ 第2・3学年「学習を支えるための資料」に、特集「発想を広げる」を設け、言語活動を行う際の方法や手順を示している。</p>	<p>○ 発想・構想の場面で意見を述べ合ったり、鑑賞の場面で自分の価値意識をもって批評し合ったりする学習活動を設定している。</p> <p>【発想・構想の場面】</p> <p>(例) 第1学年「生活をいろどる文様」など</p> <p>(例) 第2・3学年「あれ? どうなっているの?」など</p> <p>【鑑賞の場面】</p> <p>(例) 第1学年「世界の仮面と出会う」など</p> <p>(例) 第2・3学年「ゲルニカ、明日への願い」など</p> <p>○ 友達と意見交換しながら、作品を制作したり、話し合ったりする言語活動場面を、写真を付して示している。</p> <p>第1学年 7箇所</p> <p>第2・3学年 6箇所</p> <p>○ 生徒作品の観察レポート、商品企画書やアイデアスケッチ等、言語活動例を示している。</p> <p>第1学年 6箇所</p> <p>第2・3学年 18箇所</p> <p>○ 第2・3学年「学習を支えるための資料」に、特集「発想を広げる」を設け、言語活動を行う際の方法や手順を示している。</p>